

第114番組審議委員会議事録

日時：令和7年1月15日（水）13時30分～

場所：市民活動センター/コミュニティf（富士市吉原2丁目10番20号）

1. 委員総数8名

2. 出席人数5名

3. 出席委員の氏名

吉野渉 委員長・稲葉美津恵 委員・青木洋一 委員・内藤佑樹 委員・渡邊朱美 委員

4. 放送事業者出席者名

小沢教司 代表取締役社長

山本茂 放送局長

山本局長：本日はお集りいただき、ありがとうございます。今日は114回目の番組審議となります。皆様よろしくお願ひ致します。それでは番組審議委員長の吉野渉委員長一言よろしくお願ひ致します。

吉野委員長：新年明けましておめでとうございます。ニュースでもありましたように、この地域でもインフルエンザがかなり蔓延していると感じております。そんな中皆様が集まれた事、良かったと思っております。本日はよろしくお願ひ致します。

山本局長：ありがとうございます。続いて弊社小沢からお願ひ致します。

小沢社長：昨年より気管支系などの風邪が増えております。皆さんも気を付けていただきたいと思います。新年会も多くなり、昨日の吉原商店街の新年会では活気ある若手が多くなったと感じ、将来がとても楽しみに思いました。本日も忌憚のないご意見をよろしくお願ひ致します。

山本局長：それではまずは、前回審議をお願ひした「SDGsのはじまり富士市2024」のご報告です。

ご審議いただいた内容について、富士市出身の学生がインタビュアーとなり、地元のSDGsで活躍している企業にインタビューをする番組をお聴きいただきました。おおむね好評で、富士市出身の学生・高校生が番組作り、出演をしている番組もありますので、改めてSDGsや学生と企業の繋がり的重要性を認識しつつ制作していけたらと考えております。今現在、地元の企業が学生との繋がりを求めているという事もあり、そういった企業のニーズに対して尽力していけたらと考えております。また学生との繋がりもより大きくしていけたらと考えております。今後ともよろしくお願ひ致します。

今回は昨年末に放送しましたラジオエフ年末特番「富士山女子駅伝2024副音声的ラジオ」です。

恒例となった年末駅伝特番。今年も放送しました。あくまで駅伝を応援する番組という事をふまえてお聴きいただきたいと思ひます。

番組審議

- ・ 審議番組 富士山女子駅伝2024副音声的ラジオ
(15分程度)
- ・ 放送日時 令和6年12月30日 月曜日 10:00～
- ・ 出演 ナビゲーター：佐野裕美・渡邊莉奈・保科紀子

- ・ 番組編成制作方針、説明
- ・ 質疑応答

検聴15分程

山本局長：以上ダイジェスト版という形でお聴きいただきました。聴いていただいた箇所だけでも番組の雰囲気は感じていただけたらと思います。

毎年行っている番組ですので、率直なご意見、こんなコーナーがあった方がよいなど思い付きでも構いませんので、皆さんの声をお聞かせいただけたらと思います。是非今年の番組に取り入れられればと考えております。

小沢：この特番はだいぶ長くやっております。これまでのご審議で「緊迫感がない」とか「臨場感がない」などの意見が出ておりました。吉原商店街を私が見たらラジオを聞いてくださる人が多いと感じました。今年は例年より多くの方が沿道・スタジオ前などで応援していた様に感じます。

山本：では吉野委員長、ご審議お願い致します。

吉野委員長：はい、それでは始めさせていただきます。まず私から、去年も聞かせてもらい、その時はコタツでほっこり聴ける番組でした。今回は聞いてびっくりしております。今回は注目選手やチームの情報などすごく聞き取りやすかったです。コタツの中で聴くイメージで聴き始め、一気に実況席のスポーツ中継の様な状況が思い浮かびました。メールやSNSからのメッセージ読み上げている時は、コタツで聴いている時の様な温かさもありました。実際に駅伝の情報を発信しながら所々で聴いている側によりそってくれて制作していると感じました。番組名でもある「副音声ラジオ」、応援番組という良い所をもった番組だと感じました。途中で1キロ3分という解説がありましたが、1秒5メートルと例えてもらって分かりやすさがでた。途中の現場からの中継でも地域応援の太鼓の音も聴こえてきた。すごく賑やかで楽しく感じました。来年は吉原商店街で見に行こうかなと感じました。

内藤さんはいかがですか？

内藤委員：山本局長がアイデアという事で話されていましたが、その件について良いアイデアを言えるかどうか分かりませんが、内容的には吉野さんが仰っていた、押さえている所を押さえていると思いました。ラジオという媒体としてリスナーさんとのメッセージのからみがあり、駅伝での特殊な交通情報をしっかり入れている、地元のラジオとして女子駅伝にどう関わっていくのか、多分、車で聴いている人の利便性もあるので、そこも押さえていたと思います。やるべき事も抑えていて、番組のバランスが出来上がっていると思います。今年の年末特

番についてですが、今回の様に毎年やるなら番組として出来上がっていると思います。番組の形を変えたとした時に、どの立ち位置で番組をやっていくかがネックになると思います。万人向けするなら今の形は保科さんの陸上の話、メッセージ、交通の話がしっかりありますから、今のままで良いと思います。既にテレビの増田明美さんが副音声的な事をはなしていますけど、割り切って副音声に徹するなら地元ネタのみでの放送でもよいのかなと思いました。昔そういった路線で番組をやられているとは思いますが、軸足を変えるというのも一つの手なのかな？と思いました。誰もが知っている場所をずっと走っているの、近所の人だとメチャクチャ聞いてくれるなどあると思います。ただ今の流れはバランスよく番組が出来上がっているの、変えるのはチャレンジだとは思いますが。そういった意味で今回の年末特番は最大公約数で出来ていて文句が出ない内容だと思います。

青木委員：長距離ランナーの陸上部でした。私はテレビを見ていました。さっきの、1秒で5メートルの例えですが、それよりも50メートルだと9秒の方がスポーツテストをやっている子供たちがわかりやすいですかね。その他にも何キロ地点で何処を通るといのが分かっているの、有料でお店の前を通った時にお店の情報を伝えるという事ができればよいなと思いました。テレビを見て応援している人が多いと思うので、「副音声」を意識してハイブリットな放送も面白いかなと。インターネットなども使って、テレビを見ている人がエフエムを聞くきっかけになる何かが必要だと思います。箱根駅伝の距離だと選手の情報やチームについて喋る事は大事だけど、女子駅伝は距離が短いのでそこまでのミニ情報はいらぬのではないかと思います。地域の情報がもっと入ってれば良かったと思います。競技的には保科さんが「一緒に走りましょう」と言っていたからランイベントをやるなどしても良いのかなと思いました。また、吉原商店街を走っている時の生中継で現場の声が聞こえてきてとても良かったので、やはりゴール地点からの中継、もしくは音声が聞こえてきても良いのかなと思いました。最後の方はナビゲーターさんがテレビを見ながらだったからでしょうか、ゴールの描写や解説が間延びしてしまっている。そこでゴール地点の歓声や音があればより良くなると思いました。もっと言えば、全区間に現場の音が拾える形をとれば良いと感じました。そうすると人件費が増えてしまうという考えも出てきちゃいますね。難しいとは思いますがそういうのがあっても良いのかなと思います。副音声的にラジオを聞いている人はおおいですか？

山本局長：聴いている人はいます。

小沢社長：スマホでインターネット放送を聴く事ができますし、商店街でも聴いている人が多かったと感じました。

山本局長：インターネットだと20秒ほど遅れて放送しているので、駅伝だと情報が少し遅いかもかもしれませんね。

青木委員：スタジオではテレビの音声や解説を聞いているんですか？

山本局長：テレビ音声は切っていますので、テレビ番組での情報はナビゲーターもディレクターも使っていません。

青木委員：テレビの情報は使えないという事ですね。

通った時にCMを入れるとかお店の情報が有料で入れられると良いと思いました。

山本局長：確かにいいアイデアですが、年末年始のご挨拶 CM を特番でいれています。2時間3時間の特番に全てを入れているので、プラス何かしらの CM 枠を入れるのは、良いアイデアだと思うんですが難しいかなと思います。番組内での生きた告知があるのはいいかなと思いました。「今通った〇〇店さん、年始は〇日からオープンしているそうです。」といった様な。

青木委員：リスナーさんにとってもその「生きた告知」は有益な告知になるかもしれませんね。

吉野委員長：稲葉さんいかがですか？

稲葉委員：青木さんと同じでテレビしか見ていませんでした。ずっとではなく家庭の仕事をしながら見ていました。今ラジオをきいて、「あ、あそこの所ね。」とイメージ的に湧くので良かったですし、もう少し地元の言葉を使ってもよいかもしれませんね。一番初めの駅伝特番から聞かせてもらっていますが、年々よくなっていると思います。今回は「すごいじゃん」と思いました。保科さんの説明もだんだん専門的になってきていると思います。

小沢社長：毎年保科さんには皆様のご意見も渡しています。

稲葉委員：かなり専門的になってきて、「副音声じゃないのかな。」と行ってしまいました。渡邊さんの中継はとても新鮮で良かったと思います。渡邊さんご本人は気にせず話していたと思いますが、渡邊さんの声が裏返っているのも、現場で見ている人と同じ気持ちを代弁しているのかなと思いました。その上で青木さんが仰っていたゴール地点の中継もあると良いと思います。大変かもしれませんが。そういうのもこれからやっていたらと感じました。

吉野委員長：渡邊さんは？

渡邊委員：皆さんの意見を聞いて、「なるほど」と思っております。去年番組を聞かせてもらった時は「にぎやかだな」と思いながら聞かせてもらいました。今年は少し落ち着いていて、色々な情報や内容の取捨選択がまとまってきたんだなと思います。聴いている人にとって選手の色々な情報が耳から入るというのは、すごく駅伝のファンの人にとっては聞きたくなる情報だと思います。ただ、もっとポイントポイントごとの、どのお店の前を通っているとかを、伝えてもらうと現場の感じが分かるかなと思いました。富士宮市はスタートしてすぐに富士市へと行ってしまいます。私の家の前はスタート地点でもあり、毎年保安員として立っています。そして、商店街の女将さん会で甘酒を配布しています。そんな事をやりながら、10時スタートですが、9時位からスタート地点に人が沢山来ていて、大学が旗を持って固まっているんです。学校の応援グッズを配って観客に自分たちの大学の応援をお願いしたりもしています。そうすると番組内で応援グッズの紹介をするのも面白いと思うんですね。学校によってグッズが違って楽しいですし。

稲葉委員：番組の中で、話がどんどん変わってそれぞれが話したい事を言ってしまっていますが、それを佐野さんが上手にまとめていましたね。

青木委員：事前に監督や選手の声とかはきけないのですか？

山本局長：この放送は駅伝の中継番組ではないので、あくまで「応援する番組」というポジションという約束でテレビを見ながら応援・放送する事になってます。駅伝の中継という立ち位置では出来ないことをご了承下さい。保科さんがいる事でそっち方面になりがちですが、コタツで聴くラジオすぎるのはいけないので、色々試行錯誤しながら現在の形に至っています。

青木委員：中継はスタートとゴールは絶対欲しいですね。

稲葉委員：そうですね。スタート地点が私の目の前なので良いですね。

山本局長：番組自体は10時スタートで駅伝も10時なので、一瞬しか中継出来ないジレンマがあるかもしれませんね。

小沢社長：最初の応援特番はただ大騒ぎしている番組でしたが、そこから改良して緊張感がない・競り合いの部分が無いなどのご意見を聞き改良してまいりました。今日のご意見も担当者に伝えておきます。

吉野委員長：皆さんありがとうございます。他にないようでしたら、これで審議を終わりに出来たらと思います。

山本局長：本日も貴重なご意見ありがとうございました。

小沢社長：本日は以上でよろしいでしょうか？ありがとうございました。

次回は令和7年3月19日水曜日開催です。よろしくお願い致します。

議事録の公表：令和7年2月1日 自社ホームページにて公表